

八ヶ岳縄文讃歌

弥津 岳志（茅野市）

- 1 白雲映える 八ヶ岳
しらくも やつがたけ
ひろ すその だいち
広い裾野の 台地には
ぶんか っち なか
文化が眠る 土の中
いくせんねん とき こ
幾千年の 時超えて
いまよみがえ すがた
今蘇る その姿
- 2 遺跡から出た 土器片を
つな あ ぶくげん
繋ぎ合わせて 復元し
みごと でき ひとめ
見事な出来に 一目ぼれ
あせ なが せんじん
汗を流した 先人の
くろう あと しの
苦勞の跡が偲ばれる
- 3 自然豊かな 高原に
しぜんゆた こうげん
しか いのし し い
鹿や猪獅子 射とめんと
のやま か せ こ こえ
野山を駆ける 勢子の声
こだま ひび やまなみ
木霊が響く 山脈は
はる むかし
遙か昔の ものがたり
- 4 謎を秘めたる 縄文の
なぞ ひ じょうもん
どぐう つ あいしょう
土偶に付けた 愛称は
たなばた
棚畑には ヴィーナスと
かめん めがみ なか はら
仮面の女神は 中っ原

たぐいなき世の ^よ宝 ^{たから}もの

5 ^{じょうもんじん} 縄文人の ^{わざさ} 技冴えて
^{いっしょうけんめい} 一生懸命 ^う 打ち込んだ ^こ
^{そういくふう} 創意工夫の ^{ものづくり} ものづくり
^{まな} 学んで行こう ^{いま} 今の世は ^よ
^{つた} 伝えて行こう ^{みらい} 未来には